

国・地域名

**ロシア**

<p><b>人口・経済発展状況等</b></p> <p>〔参考：日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口：1億2,671万4千人（2017年11月確定値、総務省統計局）</li> <li>●実質GDP成長率：1.7%（2017年度、内閣府）</li> <li>●1人あたりGDP（名目）：3万8,440ドル（2017年度、IMF）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口 <b>1億4,688 万人</b></li> <li>・ 実質GDP成長率 <b>1.5 %</b></li> <li>・ 1人あたりのGDP（名目） <b>10,608 ドル</b></li> <li>・ 在留邦人 <b>2,696 人</b></li> <li>・ 訪日外客数 <b>7.7 万人</b></li> <li>・ 日本食レストラン数 <b>約1,000 店</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年1月（推計値）、ロシア連邦国家統計局</li> <li>2017年、ロシア連邦国家統計局</li> <li>2017年、国際通貨基金（IMF）</li> <li>外務省「海外在留邦人数調査統計」平成30年要約版</li> <li>2017年、日本政府観光局（JNTO）</li> <li>関係者推計（モスクワ市内）</li> </ul>
<p><b>日本からの農林水産物輸出状況</b> （2017年／財務省貿易統計よりジェトロ算出）</p>	<p><b>22位 39億円 うち農産物20億円(50.8%)、林産物1億円(3.6%)、水産物18億円(45.6%)</b></p> <p><b>輸出額の多い品目： さんま（冷凍）、アルコール飲料（ビール、ウイスキー等）、インスタントコーヒー、いわし（生・蔵・凍）、菓子（米菓を除く）</b></p>	
<p><b>味覚、嗜好上の特徴</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 程よい味付けを好む。辛いもの、酸味の強いものは好まない。</li> </ul>	
<p><b>制度的制約</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則、ロシアで流通する製品には、品質と安全性が国家規格に適合しているという規格認証の取得が必要で、商品に認証取得済みマークを表示することになっている。また、輸入通関時には、税関でそれを証明する書類の提出が必要。</li> <li>・ 畜産物：牛肉は二国間条件を満たす必要がある。豚肉、鶏肉は輸入を認めていない。</li> <li>・ 牛肉：2015年3月2日より、輸出に必要となる衛生証明書の発行が開始され、ロシア向け輸出施設として兵庫県内の施設が、ロシア連邦動植物衛生監督庁のHPに掲載されている。 <a href="http://www.fsvps.ru/fsvps/importExport/japan/enterprises.html?product=1&amp;productType=1&amp;language=en">http://www.fsvps.ru/fsvps/importExport/japan/enterprises.html?product=1&amp;productType=1&amp;language=en</a></li> <li>・ 水産物：ロシア向け輸出施設の登録および衛生証明書が必要。登録施設はロシア連邦動植物衛生監督庁のHPにも掲載されている。ただし、現在はユーラシア関税同盟にて設定された各種基準等について日露間の合意が成立するまでは、新規登録が認められない状況。 <a href="http://www.fsvps.ru/fsvps/importExport/japan/enterprises.html?product=7&amp;language=en">http://www.fsvps.ru/fsvps/importExport/japan/enterprises.html?product=7&amp;language=en</a> &lt;原発関連規則&gt;</li> <li>・ 福島、栃木、群馬、茨城、千葉、東京の全ての食品：政府作成の放射性物質検査証明書（放射性物質検査報告書を添付）要求。</li> <li>・ 上記6都県以外の全ての食品：ロシアにてサンプル検査。</li> <li>・ 2018年3月23日付けで、6県（岩手、宮城、山形、茨城、千葉および新潟）からの水産物の輸入停止措置が撤廃された（ただし、ロシアにてサンプル検査を実施）。</li> <li>・ また、福島県からの水産物については、ロシア側の求める放射性物質検査証明書（セシウム、ストロンチウム）の添付を条件に、輸入停止措置が解除された。</li> <li>・ 福島県以外に所在する施設の水産物：ロシアにてサンプル検査を実施。</li> </ul>	
<p><b>商流・物流・商習慣</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本製品の取り扱いは高級スーパーマーケットのみ。数量も少なく、物流コストや認証取得等のコスト、マージン等によって価格が高くなることが不可避。</li> <li>・ 生鮮青果は高級スーパーマーケットの納入条件が買取制度でないため、少量を航空便でしか輸送できず、輸入業者が敬遠して条件が厳しい。</li> </ul>	
<p><b>日本食普及状況等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロシア人の好みとして、外国料理のなかではイタリア料理に次いで日本食の人气が第2位（2013年ジェトロ調査結果）。モスクワ市内には日本食を扱う店舗が1,000店あるとも言われ、関心は非常に高い。一方で価格の問題により、中国・韓国産の類似品が多く使われているのが現状。</li> <li>・ 調味料だけは日本製品にこだわる日本食レストラン、飲食店が複数ある。</li> <li>・ 機能性食品、サプリメントは「日本食品＝安全・安心」のイメージで受け入れられやすい。</li> <li>・ 日本酒：現時点では需要開拓段階であることもあり、ロシア側の日本酒輸入取扱業者がまだ少なく、新規の参入が進んでいない。政府がアルコール輸入のライセンス発給制限を厳格化し、物品税引き上げを実施していることも障壁となる。</li> </ul>	